

徳の真玉

学校教育目標：命・人権を大切にし、豊かな心を持ち、
学ぶ力を身につけた、たくましい子どもの育成
ホームページ<http://hhigashi@town.aisho.lg.jp>

R2. 12. 25発行
秦荘東小学校
発行責任者
校長 今村 増弘

GIGAスクール構想

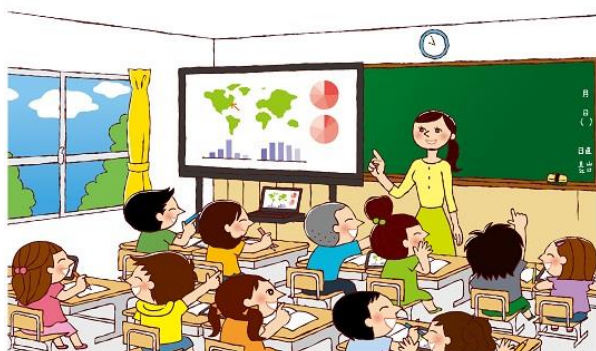
コロナに振り回された2020年でした。2月27日、安倍総理から、「3月2日から春休みまで、臨時休業を行うよう要請します。」との発表があり、春休み明けも臨時休業が延長され、6月の本格的な再開まで、長い間自宅での学習が続きました。2月28日（金）2校時・3校時に『6年生を送る会』をかりうじて開催できたのが、子どもたちや保護者の皆様に、集まっていた最後の最後だったと思います。あれから、10ヶ月が過ぎ、なお新型コロナウイルス感染拡大に歯止めがかかっていません。新しい生活様式で過ごす日々が続きます。



そんな中で、令和元年（2019年）12月19日 文部科学大臣が出された【子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現に向けて～令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境～】というメッセージにともない、いよいよ来年度までに子どもたち一人一人にタブレットが配布されます。子どもたちがこれまで教科書やノート、問題集などを使ってしていた学習のかなりの部分が、タブレットでも可能になります。これまでの学習場面では、自分の考えをノートに書いて発表したりしていましたが、必要に応じて、タブレットに書き込むことで、瞬時に大型のディスプレイに提示できます。子どもたち一人一人の考えを一度に画面に表すことも可能になります。自分の考えを表に表す機会が飛躍的に増えます。主体的に授業に取り組む姿がたくさん見られるはずです。友だちの考えを見て、自分の考えを広めたり深めたりする機会も同時に増えます。

また、今までドリル等で学習していたものを、タブレットを通じて用意されているたくさんの練習問題で学習することもできます。一人一人の学習のペースに合わせて、練習問題に取り組んでいくことも可能になります。リモートによる学習も少しずつできるようになるに違いありません。

ただ、ひとつ、今年度のコロナ禍の中で、家庭学習に取り組んだ子どもたちは、どのように学習に取り組んだかです。配布された学習プリントに一生懸命に取り組んだ子どもたくさんいたと思います。中には、しぶしぶ取り組んだ子がいたかもしれません。そういう時に、自ら学んでみよう、課題を見つけ学習に取り組む姿が見られたでしょうか。小学校の入学式の後、すぐに休業になってしまった1年生には、無理なことかもしれません。しかし、小学校で学んだ経験がある子どもたちなら、復習をしたり、気になることを調べたり、本を読んだり、長い家庭学習の時間に何か自分から進んで学ぼうとすることができたと思います。これからは、この自己学習力が必要です。自立した学習者としての子どもたちに育てなければなりません。一人一人に配布されるタブレットを使って、友だちの考えや多くの情報を得て、じっくりと考える力、そして考えを表現する力を育成していきます。この教育環境の劇的な変化は、私たち教育現場も経験のないことです。しかし、今後、様々な可能性を探りながら、まだまだ続きそうな新しい生活様式の中で変わった教育環境をチャンスに、より実のあるものにしていかなければならないと考えています。



本年も、大変お世話になりました。よいお年をお迎えください。

初めて経験するコロナ禍での年末年始です。久しぶりに家族や親戚が集まって、新年をお祝いする楽しい機会ですが、今や、感染の中心は家庭内になりつつあると聞きます。目に見えないことなので、感染してしまうのも当然のこととしてあると思います。感染することが決して悪いことではありません。しかし、感染しなくてすむものであれば、それにこしたことはありません。いつもの年のようにほできないことがたくさんあると思いますが、今一度家庭内でも感染が広がってしまうことを念頭に、ご家族・ご親戚でよいお年をお迎えください。例年より短い冬休みになりますが、1月6日（水）に子どもたちが元気に登校してくれることを楽しみにしております。

